

問1 北海道の製造品出荷額等の内訳について、全国平均では約11.6パーセントにとどまる一方で、北海道では全体の約33.1パーセントと3割以上を占め、最も大きな割合となっている工業部門は何ですか。（2018年 三重公立入試 類似）

1. 食料品工業                      2. 機械工業                      3. 化学工業                      4. 金属工業

問2 世界遺産に登録されている知床では、多くの観光客が訪れる一方で、自然環境を破壊しないための対策が取られています。湿原や高山植物が広がるエリアに「木道」が設置されている主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）

1. 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため  
2. ヒグマなどの野生動物が、人間の歩行ルートに侵入できないように物理的に遮断するため  
3. 周辺の森林から切り出された木材の輸送を効率化し、地元の林業を活性化させるため  
4. 大雨が降った際に地面の侵食を防ぎ、土砂が海へ流出するのを食い止めるため

問3 十勝平野で行われている、同じ土地に異なる種類の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」の目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 特定の病害虫の発生や土壌の栄養偏りによる連作障害を防ぐため  
2. 冷害による被害を最小限に抑えるため、収穫時期を極端に分散させるため  
3. 米の生産調整（減反政策）に伴い、水田を畑地に転換して活用するため  
4. 急傾斜地において土砂崩れを防ぎながら、効率よく肥料を吸収させるため

問4 北海道の農業経営に関する統計を分析すると、経営耕地面積が30ha以上の大規模な農家が6割以上を占める一方で、都府県では1.0ha未満の農家が半数以上を占めるという対照的な構造が見られます。また、北海道では農業を主な仕事とする「主業農家」の割合が約74%に達しています。このように北海道で主業農家の割合が極めて高い理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 長野県公立入試 類似）

1. 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから  
2. 都府県に比べて冬の農閑期が長いので、冬の間だけ工業地帯へ出稼ぎに行く農家が全農家の約8割を占めているから  
3. 広大な土地を利用して、小規模な水田では不可能な低コストの米作りを行い、全国の米需要のほとんどを賄っているから  
4. 消費地である大都市から遠く離れているため、輸送費を節約するために加工品を専門に作る農家が急増したから

問5 北海道の農業産出額の構成を示したデータでは、乳用牛や肉用牛といった「畜産」が51.7%を占め、全国平均の31.4%を大きく上回っています。北海道において、このように畜産が盛んになった背景や理由として最も適切な説明はどれですか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）

1. 広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。  
2. 夏の高温多湿な気候を活かし、広大な土地で年に二度、米を収穫する二期作が行われたため。  
3. 山がちで複雑な地形を活かし、小規模な土地で果樹栽培と畜産を組み合わせた多角経営を推進したため。  
4. 大消費地である東京周辺への輸送距離が非常に短く、新鮮な食肉や牛乳を即座に届けられる有利な立地であったため。

問6 1958年に約47.8万人であった札幌市の人口が、2018年には約195.2万人へと急増した背景にある、北海道特有の社会経済的な状況として最も適切なものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）

1. 道内の基幹産業であった石炭産業などの衰退により、地方から都市機能が集積する札幌市への人口移動が加速したため。  
2. 北海道全域で稲作が拡大し、農業に従事する現役世代が札幌市周辺の広大な農地へ移住したため。  
3. 札幌市に大規模な工業地帯が形成され、重化学工業に従事する労働者が全国から一斉に集まったため。  
4. 道内の交通網が未発達であったため、物流の拠点として札幌市にのみ人口が残留せざるを得なかったため。

問7 北海道の十勝平野などで見られる、一つの耕地をいくつかの区画に分け、年度ごとにジャガイモ、小麦、てん菜（ビート）、豆類などの異なる作物を順番に栽培する農業手法を何といいますか。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 輪作                      2. 二毛作                      3. 転作                      4. 二期作

問8 北海道の稚内や知床といった地名は、ある人々の言語に由来しています。これらの地名の元となった言語を使用していた、北海道の先住民族を何と呼びますか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. アイヌ民族                      2. 縄文人                      3. 蝦夷（えみし）                      4. 弥生人

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>食料品工業</b>	北海道は、広大な農地を活かした大規模な農業や、豊かな漁場を背景とした漁業が非常に盛んです。これらの豊富な農水産資源を加工し、乳製品や水産加工品、砂糖などを製造する工業が発展しているため、工業生産全体に占める割合が全国平均と比べて極めて高いことが特徴です。
問2	<b>答え 1</b> <b>観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため</b>	知床のような貴重な自然環境では、観光客が自由に歩き回ると足元の植物が踏み荒らされたり、土壌が踏み固められて植物が育たなくなったりする「踏みつけ」の被害が発生します。木道を設置することで観光客の動線を限定し、環境保護と観光利用の両立（エコツーリズム）を図っています。
問3	<b>答え 1</b> <b>特定の病害虫の発生や土壌の栄養偏りによる連作障害を防ぐため</b>	十勝平野では、ジャガイモ・小麦・てんさい・豆類の4品目を中心とした輪作が確立されています。同じ場所で同じ作物を栽培し続けると、土壌の成分が偏ったり、特定の病気にかかりやすくなったりする「連作障害」が発生しますが、輪作によってこれを防ぎ、持続的な農業を可能にしています。
問4	<b>答え 1</b> <b>1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから</b>	北海道では広大な経営耕地面積を活かし、大型のトラクターなどを導入した大規模経営が確立されています。労働生産性が高く、1世帯あたりの農業所得を十分に確保できる環境があるため、他の仕事を持つ必要性が低く、結果として主業農家の割合が高まります。一方で都府県は経営面積が狭いため、農業所得だけで生計を立てることが難しく、多くの農家が兼業化（副業的農家など）しています。
問5	<b>答え 1</b> <b>広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。</b>	北海道、特に根釧台地などの地域は、夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい冷涼な気候であるため、伝統的な稲作には向きませんでした。一方で、その広大な土地を牧草地として活用することで、牛を飼育する酪農や肉用牛の生産といった「畜産」が発展しました。このように、地形や気候といった自然環境に合わせて、最も効率的な農業形態を選択した結果、大規模な畜産経営が確立されました。
問6	<b>答え 1</b> <b>道内の基幹産業であった石炭産業などの衰退により、地方から都市機能が集積する札幌市への人口移動が加速したため。</b>	かつての北海道を支えた炭鉱などのエネルギー産業が衰退したことで、それらの地域から人口が流出し、代わって第3次産業（サービス業や小売業）が成長した札幌市に人口が吸収されました。このように、特定の都市に人口や経済機能が突出して集まる現象は、地方における一極集中の典型的な事例として挙げられます。札幌市の人口規模は1950年代の数倍に達しており、北海道の総人口の約3割から4割近くを占めるに至っています。
問7	<b>答え 1</b> <b>輪作</b>	同じ土地で同じ作物を作り続けると、土壌の養分が偏ったり病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。これを防ぎ、地力を維持するために複数の作物を計画的に組み合わせで栽培します。二毛作は1年間に2種類の異なる作物を育てること、二期作は同じ作物を1年に2回育てること、転作は米の生産調整などで別の作物を育てることを指します。
問8	<b>答え 1</b> <b>アイヌ民族</b>	北海道には古くから、独自の文化を持つ先住民族であるアイヌの人々が暮らしてきました。現在でも北海道の多くの地名は、彼らの言語である「アイヌ語」に由来しています。例えば「稚内」はアイヌ語で「冷たい水の出る川」という意味の言葉に由来するなど、地域の自然の特徴が名前に反映されていることが多くあります。